

# 清水港長期構想

令和元年 8 月  
静岡県交通基盤部港湾局



## 目 次

1	長期構想について	1
2	清水港の目指す姿	5
3	長期的な空間利用のゾーニング	14
4	取組方針と具体施策	17
5	具体施策の内容	20
6	地区別空間利用のイメージ	41
7	施策展開のシナリオ	46
8	長期構想の実現に向けた推進体制	49



## 1. 長期構想について

## (1) 清水港長期構想

港湾における「長期構想」とは、港湾管理者が、おおむね20～30年の長期的視点から、港湾空間利用の基本的な方向性をとりまとめるものである。

「清水港長期構想」は、検討委員会を設置し、港湾関係者に加え、新技術や観光など様々な分野の有識者のご意見を反映し、基本理念のもと、現状分析と時代認識をもって、おおむね20年後（目標年：2040年）の将来の共感できる目指す姿をデザインするとともに、その実現に向けた基本戦略や取組施策等を取りまとめている。

今後、策定した「長期構想」を踏まえ、10～15年後の具体的な整備計画である「港湾計画」を改訂し、取組施策を実施していく。

## (2) 策定の背景

霊峰富士を仰ぎ、三保半島に抱かれた清水港は、風光明媚な天然の良港として栄え、江戸時代には、江戸と大坂を結ぶ物資輸送の中継基地、交通の要衝として発展してきた。

明治期には、1878年（明治11年）清水波止場の築造を契機に、港の中心が巴川河畔から大型船の出入港が可能な清水波止場へと転換され、1899年（明治32年）の開港以後は、緑茶の海外直接輸出を中心に臨海工業の国際的な飛躍とともに、貨物専用の臨港鉄道が開通するなど、“みなとまち”として賑わいをもたらした。

昭和の時代では、関東大震災復興需要の高まりを受け、1927年（昭和2年）大規模な貯木場が折戸湾に完成し、木材輸入港として繁栄するとともに、定期貨物船を利用して輸出用の缶詰といった地場産業を实らせてきた。また1952年（昭和27年）には国際貿易港として、国より「特定重要港湾」に指定され、貨物輸送のコンテナ化や船舶の大型化を始めとする海運の技術革新の進展に伴い、国際海上輸送網や広域的な道路交通網などが発達し、県内外の輸送機械や精密機械など、あらゆる様態の貨物を取り扱う総合港湾として成長してきた。

今日では、2011年（平成23年）の港湾法改正により「国際拠点港湾」に指定されるとともに、1990年（平成2年）の大型客船「クイーンエリザベスⅡ」の寄港を契機として設立された清水港客船誘致委員会の誘致活動に



歌川広重東海道五十三次に描かれた江尻日の出の周辺に浮かぶ廻船



お茶の輸出の様子(明治～大正期)



コンテナ船初寄港(昭和45年)

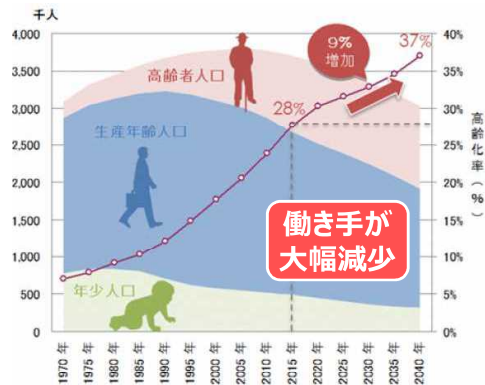


「クイーンエリザベスⅡ」の寄港(平成2年)

より、クルーズ船の寄港が増加し、また2017年（平成29年）には、国際クルーズ拠点の形成を図る「国際旅客船拠点形成港湾」に指定されるなど、国際港湾都市として、周辺地域の経済・文化・国際化に大きく貢献している。

近年、海運業界の再編を始め、船舶の大型化やクルーズ需要の高まり、温室効果ガス排出削減など、世界的な社会情勢の変化とともに、国内では生産年齢人口の減少に伴う労働力不足など社会問題が顕在化している。

清水港は、近年の高速道路網や富士山静岡空港の拡充により、拠点性が高まっており、目前に迫る中部横断自動車道の開通を契機として、山梨・長野県などさらなる交流拡大が期待されている。また、港湾管理者、所在市及び民間企業が連携し、“みなと”と“まち”を一つの資産として、地域経営を担う「清水みなとまちづくり公民連携協議会」を設立し、清水港及びその周辺地域一体の具体的な『グランドデザイン』を描き、その実現に取り組み始めている。

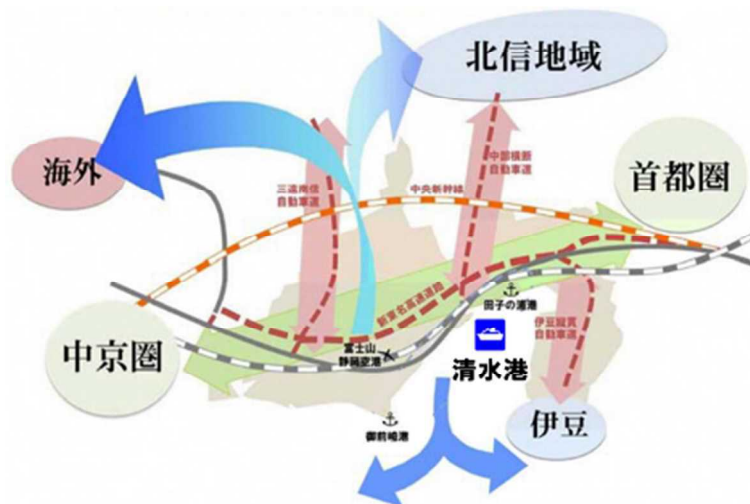


静岡県の推計人口



トラック隊列走行の社会実験

このため、港湾管理者である県は、これまでの延長線上ではなく、第4次産業革命と呼ばれるAIやIoTによる技術革新の進展を見据え、おおむね20年後の清水港の将来像となる『長期構想』を、『グランドデザイン』と方向性を共有し、策定する。



静岡県周辺の交通ネットワーク

### (3) 清水港長期構想検討委員会

本長期構想の策定にあたっては、港湾関係者に加え、新技術や観光など様々な分野の有識者20名による検討委員会を設置し、計3回の委員会を実施し、検討を行っている。

#### 委員名簿(敬称略・50音順)

平成31年3月末現在

氏名	役職	摘要
秋田 典子	千葉大学大学院園芸学研究科 准教授	
荒木 勉	一般社団法人ヤマトグループ総合研究所 専務理事	
井上 剛	サッポログループマネジメント株式会社 グループロジスティクス部グループリーダー	
稲葉 健太	S Y L ジャパン株式会社 代表取締役	
海野 俊也	株式会社静岡新聞社 編集局専任局長兼論説副委員長	
北村 尚武	株式会社楽帆 代表取締役CEO	
佐々木 淳	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授	副委員長
庄司 るり	東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門 教授	
新谷 浩一	東海大学海洋学部 准教授	
須野原 豊	公益社団法人日本港湾協会 理事長	委員長
高山 茂宏	静岡市清水区自治会連合会 会長	
田中 知足	国土交通省中部地方整備局 港湾空港部長	
田中 裕二	第三管区海上保安本部 清水海上保安部長	
田辺 信宏	静岡市長	
中原 正顕	国土交通省港湾局港湾計画課 港湾計画審査官	オブザーバー
西尾 忠久	清水港運協会 会長	
二宮 芳樹	名古屋大学未来社会創造機構モビリティ領域 特任教授	
府川 尚弘	静岡ツーリズムビューロー ディレクター	
前田 英寿	清水みなとまちづくり公民連携協議会 会長	
望月 薫	清水港客船誘致委員会 会長	

#### 【検討経過】

- 平成30年11月5日 **第1回検討委員会**  
▶課題整理、骨子案の検討
- 平成31年2月6日 **第2回検討委員会**  
▶原案の検討
- 平成31年3月27日 **第3回検討委員会**  
▶委員会最終案のとりまとめ
- 平成31年4月26日～令和元5月20日  
**パブリックコメント**
- 平成31年8月 **公表**

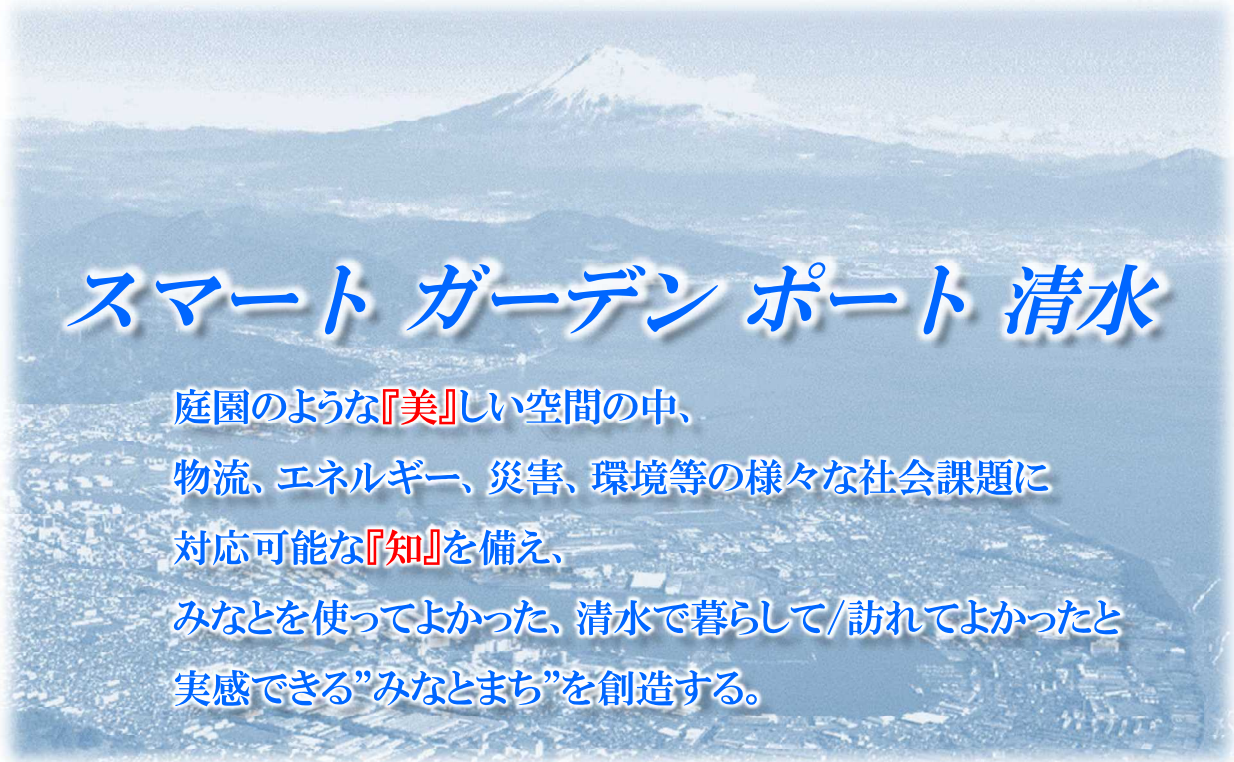


委員会開催状況(第2回)



## 2. 清水港の目指す姿

## (1) 長期構想の基本理念



## (2) 20年後の清水港の目指す姿

### 【物流・産業】

- 日本の中心でスマートな物流を実現し、利用者が**使いやすさを実感**できるみなと
- 世界の英知が集まり、新たな**ビジネスが生まれる**みなとまち

### 【交流・生活・環境】

- 国内外の人々が**憧れ、何度も訪れ、滞在したくなる**美しいみなとまち
- 気軽に**海の豊かさを享受し、**楽しみ慈しむ**ことができる海辺の庭園

### 【防災・危機管理等】

- 訪れ、働き、暮らす人々が**安全・安心を感じられる**みなとまち
- 災害時に**緊急物資受入拠点**として機能し、**迅速に平時の機能を回復**する強靱なみなと



(3) 目標と基本戦略

**目指す姿①** 日本の中心でスマートな物流を実現し、利用者が**使いやすさを実感**できるみなと

**目標-1** いかなる状況にも迅速かつ効率的に対応するスマートな物流システムの構築

**スマート物流システムのイメージ**

情報通信技術を活用した港湾荷役の自動化	東西物流の効率化
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ データ連携基盤による輸送の最適化</li> <li>▶ 自動離着岸システム</li> <li>▶ スマートゲート (止まらずにゲート通過・コンテナダメージをAI画像によりチェック)</li> <li>▶ 災害に備えた最適な港湾荷役システム (平時) 自動化・遠隔操作による効率化 (災害時) 手動運転による冗長化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 共同輸送 (複数荷主の貨物をまとめて定期輸送)</li> <li>▶ 混載輸送 (異なる貨物をまとめて小口輸送)</li> <li>▶ 渋滞回避 (最適な輸送手段を選択し、定時性を確保)</li> </ul>
	災害時における冗長化
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ルート切替 (豪雨や地震、事故により、一部輸送ルートの遮断が生じて、迅速に代替ルートを確認)</li> </ul>



**基本戦略**

充実した陸・海交通ネットワークを活かし、トラック隊列走行や港湾荷役システムの遠隔化・自動化などの革新技术を導入した国際物流ターミナルを形成し、日本の中心で多様な輸送手段を駆使することで、いかなる状況にも迅速かつ効率的に対応するスマートな物流システムを構築する。

目指す姿①

日本の中心でスマートな物流を実現し、利用者が**使いやすさを実感**できるみなと

目標-2

海上輸送網の拡充と付加価値を生む効率的な物流サービスの提供



海外で食される寿司（まぐろ）



更なる利便性の向上

(農水産品の海外販路拡大の例)



基本戦略

船舶の大型化、モーダルシフト、LNG燃料船の増加など、様々な物流の変化に順応した海上輸送網の拡充を図るとともに、物流ターミナルと一体となったロジスティクスセンターにより、農水産品保管や流通加工など付加価値を生む効率的な物流サービスを提供することで、さらに利便性を高め、魅力を向上する。

目指す姿②

世界の英知が集まり、新たなビジネスが生まれるみなとまち

目標-3

海洋産業の活性化と新たなビジネスの創出

Akiyo Mogi "An Atlas of the Sea Floor around Japan" (1979, University of Tokyo Press)

**PORT OF SHIMIZU**

- 造船産業
- 海洋調査企業
- 水産業
- 食品関連メーカー
- 東海大学海洋学部
- 東京海洋大学（清水ステーション）
- 水産研究・教育機構（国際水産資源研究所）
- 国立清水海上技術短期大学校
- 日本・世界の研究機関、研究者等
- 海洋プラスチックごみ削減に関する研究と行動の推進

地球深部探査船「ちきゅう」

多種多様な深海生物

有人潜水探査船「しんかい6500」

海底鉱物資源

駿河湾の豊富な海洋資源

3,776M

2000  
1000  
200  
0  
200  
500  
1000  
1500  
2000

2,500M

**海洋産業の活性化**

研究船等のメンテナンス（イメージ）

**新たなビジネスの創出**

国際会議の開催（イメージ）

2019 国際海洋バイオテクノロジー学会  
2021 国際深海生物学会開催決定 !!

海洋生物 未利用海藻を活用した  
由来の創薬 食品開発

**基本戦略**

貴重な港湾空間の用地を活用し、駿河湾や南海トラフなどの豊富な海洋資源を研究・活用する研究機関や海洋関連施設を集積させ、調査船やオフショア支援船※などの基地港となることで、造船業や港湾荷役など地域の海洋産業の活性化を図るとともに、世界中から研究者や技術者が集まり、食品、医療などの基盤産業と知見を分かち合うことで、ベンチャー企業の創設など新たなビジネスを生み出し、県内企業の活力向上を図る。

※オフショア支援船：油田開発など、洋上の探索・生産プラットフォームまで人員・物資を運送したり、プラットフォーム自体をけん引するために使われる船舶

**目指す姿③ 国内外の人々が憧れ、何度も訪れ、滞在したくなる美しいみなとまち**

**目標-4**

“連携する船社のクルーズラインの母港化”と“北東アジアクルーズの東日本における拠点化”、“スーパーヨットの拠点港化”



近隣空港からのフライ&クルーズ



カーフェリーによる西伊豆観光



携帯1つでつながるクルーズ観光



小型モビリティによる地域内輸送



ヘルスケア・リゾートの一例  
〔Royal Hotel And Healthcare Resort  
Quy Nhon〕



訪日クルーズ旅客で賑わう三保松原

**地域の新たな事業展開の一例**

地域資源を活かした  
体験型観光



観光地における  
ドラマ仕立ての音声ガイド

<http://www.otono.site>

**基本戦略**

世界遺産富士山と調和した美しい景観やみなとまちの歴史・文化を活かし、周辺の類まれな観光資源と快適な移動サービスでつながる国際旅客船ターミナルを形成することで、クルーズ船やスーパーヨットなどにより来訪する国内外の人々がまちにあふれる光景が日常のものとなり、そこに地域の人々が集まり、様々な事業を展開することで、観光を核とした地域経済の活性化を図る。

目指す姿④ 気軽に海の豊かさを享受し、楽しみ慈しむことができる海辺の庭園

目標-5 緑の創生や自然環境・港湾景観の維持・向上、魅力ある水辺空間の創出

### 緑の創生や自然環境・港湾景観の維持・向上



静穏で低利用の折戸湾

藻場の創生  
(例：アマモ)



松原に囲まれ海洋レクリエーションが盛んな三保内浜

緑の創生  
(例：松の植樹)



### 魅力ある水辺空間のイメージ



親水性のある海辺



水上レストラン  
(天王洲TY Harbor)



多様な水域利用  
(お風呂ボート)



気軽にスポーツができる砂浜



ビーチサイドでの食事や休憩



仕事もできる居心地の良い場所

### 基本戦略

三保半島に抱かれた穏やかで美しい水面を後世に引き継ぐため、失われた緑の創生や自然環境、港湾景観の維持・向上に地域ぐるみで取り組むとともに、恵まれた水域とその背後地の利活用に民間投資を促し、アクセスをさらに向上させることで、人々が海辺を散策しながら集い、絶景を鑑賞しながら食を楽しむようなライフスタイルが体験できる魅力ある水辺空間を創出する。

**目指す姿⑤** 訪れ、働き、暮らす人々が**安全・安心を感じられる**みなとまち

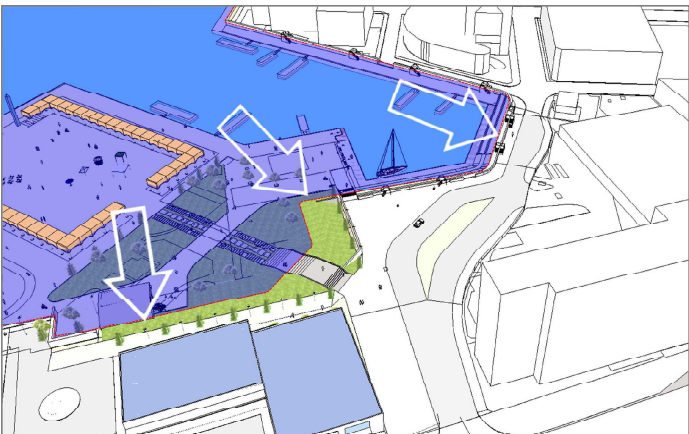
**目標-6** いかなる災害等が発生しようとも、人命の保護が最大限図られること  
また地域社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること

**景観に配慮した防潮堤**



防潮堤整備の一例(日の出地区)

**平時** 起伏のついたレイアウトによりつろぎの空間を提供



**災害時** 津波浸水からまちを防護 (L1津波の場合)

**分散型電源による  
エネルギーマネジメント**



災害時にも  
活用できる  
再エネ設備等

**平時** 需要に合わせた効率的な電力  
融通、余剰電力は売電



**公共施設**  
(避難施設)  
(防災拠点等)



**民間施設**  
(避難施設)  
(物資供給拠点等)

**災害時** 稼働する分散型電源より、重要  
施設へ優先的に電力を供給  
資料：ふじのくにエネルギー総合戦略

**訪日外国人にもわかりやすい情報提供**  
デジタルサイネージ (イメージ)



**平時** 観光案内情報・交通情報を多言語  
で提供



**災害時** 災害時に必要な情報を多言語で提  
供

**基本戦略**

多くの来訪者の避難体制を確立しながら、景観に配慮した防災施設の整備や分散型電源によるエネルギーマネジメントシステムを導入し、災害に強く、速やかな復旧・復興が可能な安全・安心なみなとまちを築く。



目指す姿⑤

災害時に**緊急物資受入拠点**として機能し、**迅速に平時の機能を回復**する強靱なみなと

目標-6

大規模災害発生時でも3日後に緊急物資  
2週間後にコンテナ貨物の荷役再開

平時の取組

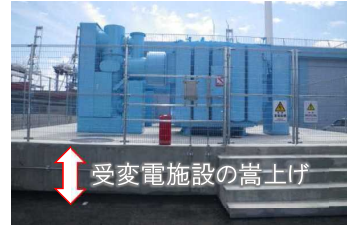


www.city.fujinomiya.lg.jp

予防保全型維持管理  
(橋梁点検)



耐震強化岸壁の整備



受変電施設の嵩上げ

浸水回避によりターミナル電源確保



港湾荷役機械の免震化  
手動運転にも対応した自動化



各種団体や物流業者との  
災害時協力協定の締結

災害時の迅速な対応



船舶による緊急物資輸送



フェリーによる人員輸送



災害医療現場への物資補給



迅速な道路啓開



東日本大震災時の仙台塩釜港

クローラークレーンによる荷役再開

基本戦略

予防保全型維持管理の導入により、港湾機能を持続させるとともに、港湾施設の耐震強化やリスクマネジメントの推進により、大規模災害時に生活や医療に必要な緊急物資を確実に届ける海上輸送拠点として機能し、また速やかに平時の機能を回復することで、地域の早期復興を支援する。

### 3. 長期的な空間利用のゾーニング

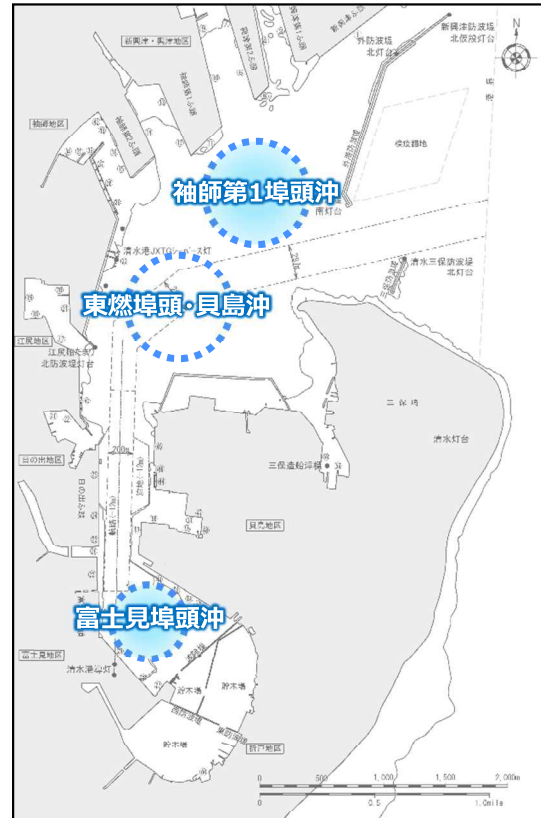
## (1) 空間利用の視点

### ① 水域利用の視点

清水港における大型船が回頭可能な泊地は、右上図のとおりである。

港湾開発においては、回頭泊地の規模により、利用船舶の大きさが決まることから、施設配置を決定していく上で、水域利用のあり方は最重要となる。

- ▶ 今後の開発により、袖師第1埠頭側の利用頻度が高まることが予想されることから、富士見埠頭側へ一定量貨物をシフトしつつ、水域利用のバランスを保つこととする。



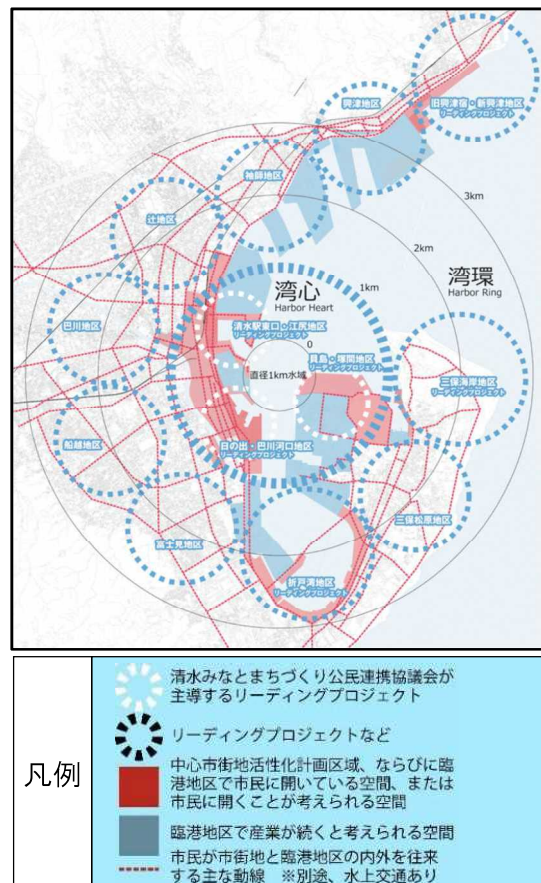
(右上図)  
清水港における主要な回頭泊地

### ② まちづくりの視点

『グランドデザイン』では、右下図のように、コンパクトな円環状の港湾都市形態を清水の本質と捉え、港の中心から臨港地区と市街地へ広がる同心円「湾心湾環構造」を「ひらく・みなとまち」を形づくるガイドとしている。

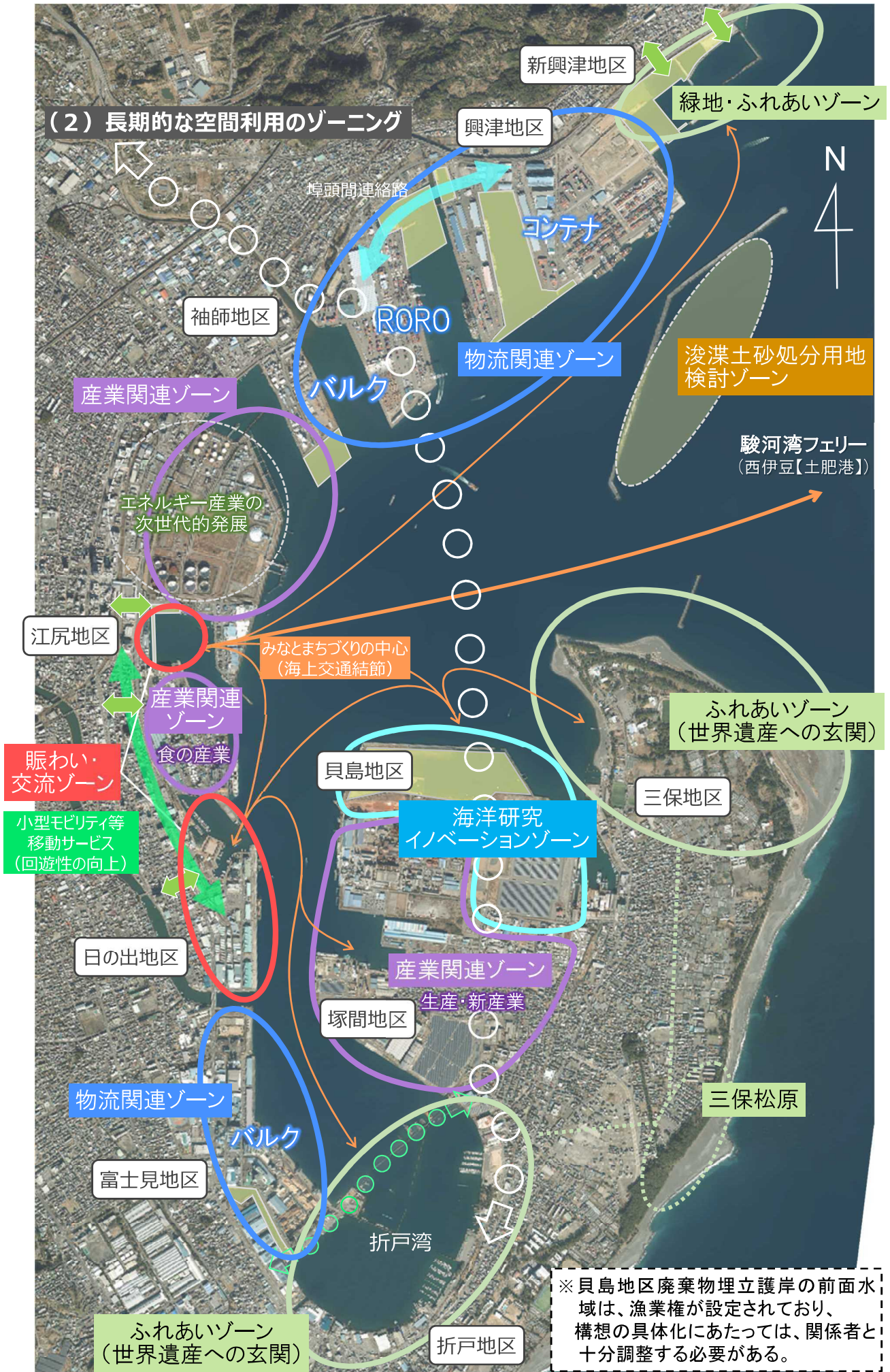
特に、湾央エリア内の江尻・日の出・貝島地区を3拠点と位置づけ、重点プロジェクトにより湾央エリア全体を活性化させるとともに、周辺の湾環エリアへ波及させることを期待している。

- ▶ 本長期構想においても、この方向性を共有し、物流利用を『湾央エリア』から『湾環エリア』へ機能移転していくこととする。



(右下図)  
清水みなとまちづくり公民連携協議会が提案する  
するみなとまちづくりの方向性「湾心湾環構造」

(2) 長期的な空間利用のゾーニング



※貝島地区廃棄物埋立護岸の前面水域は、漁業権が設定されており、構想の具体化にあたっては、関係者と十分調整する必要がある。

## 4. 取組方針と具体施策

本長期構想では、前述の「基本戦略」を推進するため、以下のとおり「取組方針」とその「具体施策」を設定する。（**施策〇-#** は重点施策）

## （１）物流・産業

### ①コンテナ機能の集約とさらなる大型コンテナ船の寄港環境確保

**施策①-1** 次世代高規格コンテナターミナルの形成(大水深多目的国際物流ターミナル化)

### ②労働力不足や環境問題に対応するための次世代高規格ユニットロードターミナルの形成

**施策②-1** 次世代高規格ROROターミナルの整備

**施策②-2** ROROとコンテナの連携による効率的な輸送手段の構築

### ③高度な物流サービスを提供する臨海部ロジスティクス機能の強化

**施策③-1** 付加価値を生むロジスティクスセンターの導入(臨港地区における在庫拠点化)

### ④情報通信技術の活用による物流のスマート化

**施策④-1** 内陸部の物流拠点(インランドデポ等)を活用したトラック隊列走行の受入

**施策④-2** 自動運航船への対応

### ⑤バルク船大型化への対応

**施策⑤-1** 大型輸入パルプ船対応施設の整備

**施策⑤-2** 大型輸入液体運搬船対応施設の整備

### ⑥バルク貨物取扱機能の効率化・安全性向上

**施策⑥-1** 外内貿多目的ターミナルへの集約・再編

### ⑦LNGバンカリング拠点の形成

**施策⑦-1** LNG輸入拠点におけるバンカリング機能の導入検討

### ⑧低未利用な用地・施設の有効活用

**施策⑧-1** 産官学が連携した海洋研究・開発拠点の形成

**施策⑧-2** 新たな浚渫土砂処分用地の確保

**施策⑧-3** 村松運河埋立による物流機能の再編

**施策⑧-4** 道路構想

## (2) 交流・生活・環境

### ⑨国際クルーズ拠点の形成

施策⑨-1 日の出ふ頭のクルーズ船受入対応施設の整備

施策⑨-2 クルーズ関連産業の需要拡大

### ⑩スーパーヨットの拠点港化

施策⑩-1 スーパーヨット受入機能の確保

### ⑪「みなと」と「まち」が融合した観光交流空間の創出

施策⑪-1 国際旅客船ターミナルを活用した交流・賑わいの創出(日の出地区)

施策⑪-2 “食の拠点”を活用した交流・賑わいの創出(江尻地区)

### ⑫海を楽しみ、快適に過ごせる水辺空間の創出

施策⑫-1 水面を活用したリゾートの形成(折戸地区)

施策⑫-2 海洋レクリエーション拠点の形成(新興津地区・三保地区)

### ⑬連続性・安全性に配慮した人流動線の確保と拠点間のアクセス向上

施策⑬-1 多様な移動サービスの創出による各拠点間のアクセス向上

施策⑬-2 水際を周遊する緑道の整備

### ⑭良好な環境・景観の創出

施策⑭-1 海浜・藻場の再生や生き物の生息場づくり

施策⑭-2 美しい景観の創出

施策⑭-3 プレジャーボートの適正配置

## (3) 防災・危機管理等

### ⑮防災・減災機能の強化

施策⑮-1 津波防災対策の推進、無堤区間の早期解消

施策⑮-2 みなと機能継続計画(みなとBCP)の継続的な見直し

施策⑮-3 耐震強化岸壁の整備

### ⑯既存ストックの戦略的スクラップ&ビルドの推進

施策⑯-1 老朽化施設の総量削減と機能向上